

《カリキュラム・マネジメント評価表》

学校番号	高等学校名	課程	指定事業等(国・県ほか)
81	茨城県立水海道第一高等学校	全日制課程	

○目標・取組・検証・対応は、学校経営計画表、自己評価表及びブランドデザイン(学校・学年・教科等)との間で一貫性をもたせること。(表横列)
 生徒のキャリア形成の道筋を見る化する視点からも、目標・取組・検証・対応については、各項目間での関連が図られていること。(表縦列)
 なお、目標、検証の成果の欄の指標は、生徒が「何ができるようになったか」(付加価値)の視点で設定し、客観的なデータ(数値)で示すこと。
 例・学力向上…高校生のための学びの基礎診断の結果(※必須)、個々の生徒の〇〇の上昇率、入学時からの〇〇の向上率 等
 ・技能検定合格…合格率 等 (技能審査の水準ex.「〇〇検定〇〇級以上」)
 ・コンテスト入賞数 等
 ・進路実現…学科関連分野への進路実現率(進学・就職者/入学者)、大学進学実績、〇〇年連続〇〇達成 等
 ・教員評価面談や教員・生徒アンケートの評価項目の割合 等
 項目は、文部科学省「学校評価ガイドライン【平成20年改訂】」に基づき作成。指標を設定する際の視点については、p49～54も参照すること。

重点度	項目	現状分析と課題(R3)	目標【GOAL】	取組【PLAN】⇒実施状況【DO】	検証【CHECK】	対応【ACTION】
					成果	次年度(R4)への課題と取組の方向性
1	学習指導(教育課程)	【現状】 ・校内相互授業参観を行っているが、参観数は増えておらず、その成果も検証できていない。 【課題】 ・3年間を見通した指導方法、指導体制の改善をすること。	校内相互授業参観の参観数向上 令和元年～3年の参観者数 ⇒ 50名程度で推移	・『教育実習期間に3週間授業参観期間を設定』⇒ ○ ・『授業参観後に、これまでの指導体制を見直す』⇒ △ ・『3年間を見通した指導方法などの改善に生かす』⇒ ×	・『参観者数の増加』⇒ × 参観後に『指導方法、指導体制改善』を見直す ⇒ △	【課題】 ・『校内相互授業参観』を行っているが、参観数は増えてきたが、各教科内の研修を深める必要がある。 【取組の方向性】 ・3年間を見通した指導方法、指導体制の改善をすること。
2	進路指導 キャリア教育	【現状】 ・生徒のキャリア形成を目的とした様々な進路行事を各年次で実施しているが、個人の振り返りのための活動履歴としてなかなか積み上がっていない。 【課題】 ・各種行事の終了後に、Classiiに入力し活動記録を残す。	・各種進路行事の事前事後に活動の記録を入力	・事前学習の記録⇒× ・事後学習の記録⇒△	徐々に活動の記録が定着してきたが、まだ十分ではない。	【課題】 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた進路行事の多くを見送らざるを得なかった。そのため、自分の将来を見据えた学びについて、考えさせる機会が少なかった。 【取組の方向性】 ・3年間を通して組織的体系的に取り組むキャリア教育(進路指導)計画の見直しを検討する。
	生徒指導	【現状】 ・個人面接や登校指導等をする中で、頭髮服装等の指導や遅効は減っており落ち着いてはいるが、精神的なケアが必要な生徒が増加しており、欠席者数は減少傾向にない。 【課題】 ・特別支援コーディネーターと養護教諭が中心となりスクールカウンセラーと連携し対応していく必要がある。	基本的な生活主観の確立及び事故防止	社会人として必要なマナーを身につける⇒△ 登校指導等で交通ルール厳守⇒△ スクールカウンセラーとのカウンセリングの実施⇒○ 欠席者数の減少⇒△	特別指導件数の減少⇒○ 交通事故件数の減少⇒△	【課題】 ・頭髮服装や特別指導等は減少しているが、登校時における社会人としてのルールや事故等、また欠席者数は減少傾向にない。 【取組の方向性】 ・個人面接や登校指導を通して、高校生としての品のある行動を確立させる。また、生徒一人一人の悩みや不安に寄り添い、メンタルヘルスケアを整えらるとともに関係機関と連携し、充実した学校生活を送れるようにする。
	特別活動(部活動は含まない)	【現状】 ・生徒会各種委員会活動の活性化に向け組織の充実を図ったが未だ不十分である。運動部・文化部ともに活発である。部活動加入率は80%近くに達している。 ・地域に貢献すべく部活動単位・個人単位で市内外でのボランティア活動に取り組んでいる。 【課題】 ・HR活動・生徒会活動・各種委員会を充実より活性化させること。(自主的な活動を目指す)	生徒会・各種委員会活動の活性化	生徒会・各種委員会活動の回数増⇒× 各種委員会活動の指導体制を見直す⇒△ 地域貢献のボランティア活動の回数増⇒○	各種委員会活動の活性化⇒× 活動指導体制を見直す⇒△	【課題】 ・生徒会各種委員会活動の活性化に向け組織の充実を図ったが未だ不十分である。 ・運動部・文化部ともに活発である。部活動加入率は80%以上に達している。 ・地域に貢献すべく部活動単位・個人単位で市内外でのボランティア活動に取り組んでいる。 【取組の方向性】 ・HR活動・生徒会活動・各種委員会を充実し、より活性化させること。(教員の負担を勘案しながら自主的な活動を目指す) ・地域行事へのボランティア活動を通じて、自己理解・自己管理能力をより充実させること。
	組織運営(働き方改革)	【現状】 ・分掌ごとの縦割りの組織運営がなされており、横のつながりに欠けている。 【課題】 ・効率的な業務を実現し、高い成果をあげられるよう工夫に努める。	・学校として一体感のある体制作り	・各行事等に係わる企画や運営をGoogleアプリを利用して共有化する⇒○	各自の技量に差があり、取り組みが一律でない。	【課題】 ・各自の取り組みを集約する仕組みが必要。 【取組の方向性】 ・試行錯誤の繰り返しを厭わない前向きな姿勢をもつこと
	教育環境整備	【現状】 ・令和4年度開校の附属中学校のための施設設備整備が進められている。 【課題】 ・従来から、既存の施設設備の不足が指摘されている中で、附属中学校が設置されるため、十分な教育活動が実現できるか。	・施設設備の円滑な利用環境の実現	・Wi-Fi設備の設置とChromebookの活用⇒○	・機器類が整いつつあるが、設置場所や利用方法は試行錯誤の段階である。	【課題】 ・環境が整いつつあるが、Wi-Fiのスペックの低さが今後ハンデとなる可能性が高い 【取組の方向性】 ・デジタルとアナログの組み合わせを意識していくこと。
	地域との連携(保護者、地域住民等)	【現状】 ・生徒が係わるボランティア活動などを積極的に進めている。 【課題】 ・コロナ感染状況の深刻化に伴い、十分な活動ができていない。	・学校の所在する地域が進める活性化事業へ、保護者を含めて連携化を図る。	・地域の行事への積極的な参加⇒△	・コロナ感染状況の深刻化で、行事自体の実施が危ぶまれている。	【課題】 ・制約された条件でも地域との連携ができる方策を検討していく。 【取組の方向性】 ・ICTを活用した連携方法を実現する。
	保健管理 安全管理	【現状】 ・コロナ感染状況の深刻化に伴い、校内の感染予防徹底化を進めている。 【課題】 ・市中感染率の高まりで、校内の感染予防には限界がある。	・校内でのクラスター発生を防ぐ。	・3密回避、手指消毒徹底、換気励行 △	・目に見える効果は不明である。 ・現時点では、感染者判明から、迅速な自宅待機の決定などで、クラスター発生を予防できている。	【課題】 ・効果的な感染予防対策がはつきりしないため、試行錯誤が続いている。 【取組の方向性】 ・環境変化にも対応できる方策を検討していく。
	研修(資質向上の取組)	【現状】 ・研修センターが主催するキャリアステージに応じた教員研修の他に、本人の希望する研修への参加を推奨している。 【課題】 ・様々な研修があるため、効果のある研修を選択する余地無く、自律的な参加が困難である。	・自身の職務遂行に効果的な研修を選択できるようにすること。	・早期に研修メニューを提示する⇒○	・コロナ感染状況の深刻化などでリモート研修への急な変更がある。	【課題】 ・リモート研修等で十分効果が望めるものと、直接赴いて受講する方が良いものがある。 【取組の方向性】 ・現地に赴く手間を省くことで、他の業務への負担を減らすことができるケースも多々あるので、主催者側に改善の余地がある。
3	情報提供(広報、生徒募集)	【現状】 ・積極的な広報活動および開かれた学校づくりを推進しており、志願者数も安定している。授業公開や学校説明会および定期的なホームページ更新を通して、情報発信に努めている。 【課題】 ・さらなる広報活動と情報公開をすすめる、本校教育活動への理解と協力を促すこと。	志願者数の倍率(志願先変更前)は、1.15倍程度。	迅速なホームページ更新⇒○ 学校説明会⇒○(市町村ごとに参加日時を指定) 学校公開⇒○	志願者数を維持 ○(1.15倍程度)	【課題】 ・積極的な広報活動および開かれた学校づくりを推進し、志願者数は1.15倍程度である。授業公開や学校説明会および定期的なホームページ更新を通して、情報発信に努めている。 【取組の方向性】 ・さらなる広報活動と情報公開をすすめる、本校教育活動への理解と協力を促すこと。